



## サイの御教え

### 一九六八年ダシヤラー祭連続講話② 新たな日へと死にゆく

今日は、サティヤサイ病院の二十周年記念式典です。進行役は医科大学の学長であるゴアが務めます。この式典には、インドの各所から集まった大勢の帰依者が参加しています。病院の役員たちが、年間の入院患者と外来患者の治療状況や、その他の発展の様子を詳細に報告します。けれども、その報告は、「健康を維持するのは何のためか?」、「肉体の最良の使い方はどのようなものか?」という根源的な問いかけとは無関係です。なぜなら、感覚、知性、感情、記憶力をすべて備えている肉体は、ゴールへ向かうための道具であり手段である馬車だからです。いかなる時も、馬車の主人は馬車よりも重要です。馬車が常に整備された状態で、使いやすく、修理されていないなければならないのは、主人のためです。

寿命は、命を与えた創造主である神の手の内にあります。寿命は、食べた物のカロリーや注射した薬液の量

薬を処方した医師の技能に比例するものではありません。体調不良と死の最大の原因は、信仰の欠如と恐れです。アトマ「内在の神」という、変化も属性もなく、減少も老衰もなく、衰弱も損失もないものに集中するなら、人は死に打ち勝つことができます。ですから、最も効果のある治療法は、アトマヴィッディヤー（真の自己である魂の知識）を注射することです。

浄性を回復させる行為だけに

熱心に取り組みなさい

死は、どこでもいつでも容赦なく、確実に獲物に忍び寄ってきます。病院でも避暑地でも、映画館や飛行機、潜水艦の中でも、死は獲物を追いかけてきます。実際、誰も死の手から逃れ、避難することはできません。神のみが、命を与える者であり、命を守る者であり、命のたどり着く所です。死について考え込んではいけません。死は人生の中の一つの出来事にすぎません。すべての命の主である神、肉体という枠組みの中に存在する神について考えなさい。生活の中でずっと神を意識し、呼吸す

ること、話すこと、歩くこと、稼ぐこと、消費することといった、あなたの活動のすべてを神に捧げなさい。なぜなら、そうしたあらゆる活動をあなたが行うことができるのは、神のおかげであり、神によってであるからです。病気になったり医者にかかったりするのは、不自然なことであり、墮落です。ひとたびあなたが自分を神へ捧げれば、あなたはよくなります。病気などありえませんが。

食習慣を規制しなさい。舌の食欲を抑えなさい。浄性サットウイックの食べ物、すなわち清らかな食べ物だけを食べなさい。気晴らしは浄性のもものだけにしなさい。そうすれば、体の病と精神の病から逃れることができます。中傷、損失、失望、挫折には、勇敢に、落ち着きをもって耐えなさい。そうすれば、精神的に落ち込んで苦しめられることはなくなります。言っておかなければなりません、あなた方の誰かが苦しみを受けている時、私は嬉うれしく思います。なぜなら、それは自分の知性と価値観をはつきりと示すために、その人に与えられたチャンスだからです。

ハリシユチャンドラ王は次々とひどい災難に遭いまし

た。貧困（一つ嘘をつけば困難を避けられたが、真実を  
買いてヴィシユワーミトラ仙に王国を譲り、無一文に  
なった）、追放、債権者からの迫害（ヴィシユワーミト  
ラ仙にさらなる謝礼金を求められた）、それから「謝礼  
金を稼ぐために」王妃と息子と自分の身を売って奴隷と  
なり、その結果、主人からベナレスのガート（川岸の沐  
浴場）の火葬場の料金徴収係という落ちぶれた仕事を割  
り当てられました。しかし、ハリシユチャンドラ王は決  
して屈することも挫けることもなく、不正に屈しないと  
いう決意を貫きました。

ナーマスマラナは

サーダナだと考えなさい

神の御名は最もよく効く強壯剤です。神の御名はいか  
なる病氣も寄せつけません。ナーマスマラナを、暇つぶ  
しや一時の流行、予定表に組み込まれた不愉快な時間、  
毎日こなさなければならぬ苦しいノルマとして取り組  
んではなりません。ナーマスマラナはサーダナだと考え  
なさい。はかないものへの執着を減らすため、そして、

自らを浄化し、自らに力を与え、生と死の輪廻から自ら  
を解放するために、真剣に取り組むべきものとして考え  
なさい。すべての面において時間と変化の足かせから自  
らを救う手段として、しっかりとナーマスマラナにしが  
みついていなさい。恐ろしい病氣に対しては頼りない治  
療法に思えるかもしれませんが、ナーマスマラナは万能  
薬なのです。

この急を要する義務を逃れるための共通の言い訳は、  
今は忙しすぎてスケジュールがいっぱいなのでナーマス  
マラナをする時間がない、というものです！避けられ  
ないという理由で百もの仕事の負担に耐えることができ  
るなら、ナーマスマラナという追加の務めはそれほど嫌  
なものでしょうか？百を背負っている人は、間違いな  
くもう一つ背負うことができます。さらに言えば、ナー  
マスマラナは行事のスケジュールの一つではなく、土台  
となる絶え間ない活動です。ナーマスマラナは、呼吸と  
同じく、重要で不可欠なものとならなければなりません。  
砂糖と同じように舌に歓迎されなければなりません。睡  
眠や食べ物や水と同じように、幸福な人生の根幹でなけ  
ればなりません。この永続する一つの仕事は、百の仕事

すべての負担を減らし、それらをもっと明るく、もっと価値のあるものにするでしょう。毎日、神を思いながら起床しなさい。毎日、神の御名と共に過ごしなさい。そして、神の御名の中にある神の栄光を思つて床に就きなさい。

人生は長い一つの試練であると知りなさい

あなたは床に就き、それから目が覚めて日付が変わったことに気づきます！あなたは一日分老いました。死が一步近づきました。橋の下にはたくさんの水が流れています。それと同じように、あなたが眠りに就くと（死という眠り）、大きな変化が起こります。あなたは新たな日に目を覚ましますが、古い癖と習性は新しい体にも引き続き影響を及ぼします。人生は長い一つの試練です。物事がまったく順調に進んでいると思える時も、このことを忘れてはなりません。いつ何時、道は泥沼に変わり、空は暗くなり、幸運は離れていくやもしれません。

マヤーのペールを切り裂く英知の剣を得なさい。ゴールへと向かう旅の間、できるだけ早く真と非真を識

別しなさい。もし目が、心に映るすべての中に神を見るという果てしない歓喜を引き出す助けとならないならば、目が見えないほうがはるかによいでしょう。もし耳が、汚く不快な音の世界にあなたを引きずりこむならば、耳が聞こえないほうがはるかによいでしょう。五感によって官能的快樂に陥つてはなりません。五感、あなたにとって本当にたためることのために働いて、あなたの欲望と食欲を昇華させなければなりません。それが健康と幸福を確実にする唯一の方法です。

一九六八年九月二十三日

ダシヤラー祭

ブラシャーンティニラヤムにて

Sathy Sai Speaks Vol.8 C34